

医師のワークライフバランス維持に 必要なものは何か

—日本外科学会アンケートから見えてきたもの—

東京慈恵会医科大学 外科学講座
川瀬 和美

利益相反の有無 : 無

※この演題に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

はじめに

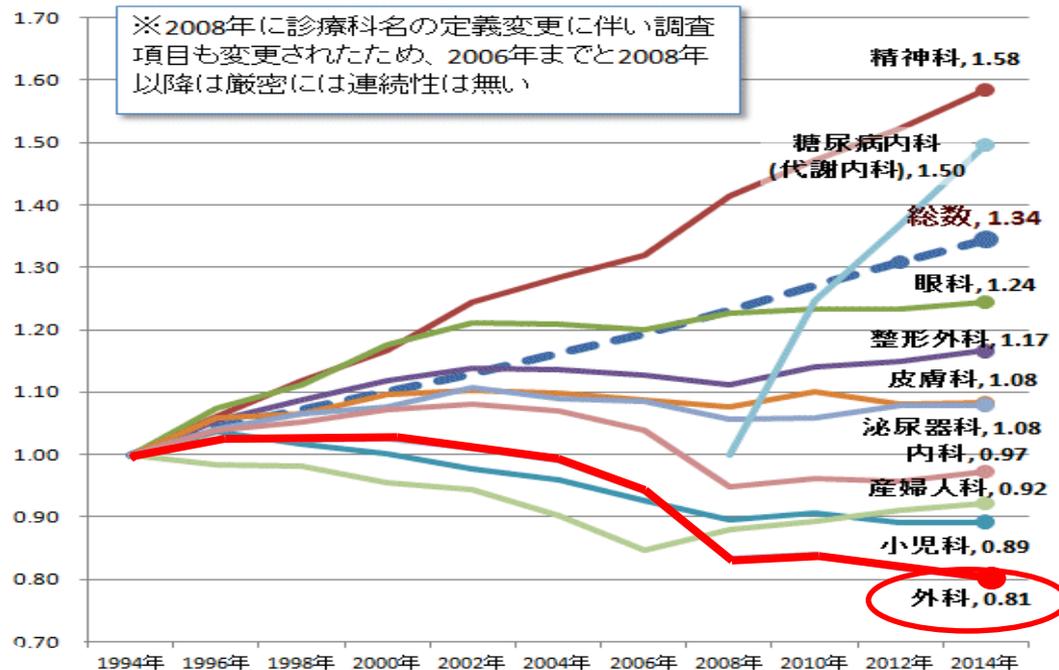
- 医師としての私たちは様々な側面を持つ
 - 医師として専門性を発揮し、職業人としての使命を全うする
 - 家族の一員として、配偶者、子供や親、兄弟、孫、親戚とのかかわりを持つ
 - 社会の一員として、地域や学校、コミュニティーなどでの責任を果たす
 - 個人として、自分自身の健康を保ち、自己啓発や趣味の時間を持つ

これらのことをバランスよく行うためには
どのようにしたらよいのか？

- 外科医の立場から得たデータを紹介
 - 我が国での医師の現状やワークライフバランスに関する認識
- 上記から示される女性医師の抱える問題を考察し、今後どのようにしていけばよいか考える

外科の現状 ー外科医は減少している

- 過酷な勤務とそれに見合わない待遇の低さから外科は敬遠される傾向にあり、このままでは外科は破綻すると危惧されている



診療科別医療施設従事医師数の年次推移

(医師・歯科医師・薬剤師調査より、カベージデータまとめを改変)

外科の現状—女性外科医は増えている

- 一方で、若い世代の女性医師が増加している現在、外科においても同様に女性医師の割合が増えている
- 現在外科専門医取得者の22%は女性医師



外科女性医師の問題

- 女性医師にとって最大の難関はキャリアアップの時期とちょうど重なる結婚・出産・育児である。
- 特に外科においては専門医取得・更新には手術症例数が必要である。
- 手術という手技や執刀した患者さんへの責任など、加減できない状況に置かれることが少なくない。

日本外科学会外科専門医に必要な診療経験 (症例数)

- 最低手術経験数 350
- 領域別分野を問わず：術者として 120
- 術者・助手を問わず：
 - 消化管及び腹部内臓 50
 - 乳腺・呼吸器・心臓/大血管・
末梢血管・頭頸部/体表/内分泌外科・
小児外科・外傷 10
- 領域別分野、術者・助手を問わず：
 - 鏡視下手術 10
- 専門医の更新：現在有効の外科専門医認定証が発行された年の3月1日から、更新を申請する年の申請締切日までの間に、100例以上の手術に従事していること

“全国外科医仕事と生活の質調査” について

- 目的: 外科医の勤務および生活環境の実態を明らかにする
- 対象: 日本外科学会会員全員
- 期間: 2014年7月より1ヶ月間
- 方法: メールによりアンケート調査を施行

アンケート質問項目

A. 一般的質問

1. 性別
2. 医師免許取得年
3. 年齢
4. 専門科目(主たるもの1つのみ)
5. 現在の主たる勤務先
6. 現在の役職名(複数選択可)
7. 専門医資格数

アンケート質問項目

B. 勤務に関して

8. 大学の医局に所属しているか
9. 現在の雇用形態
10. 年収(主たる勤務先＋副業含む総所得)
11. 年収に占める副業収入の割合
12. 週実労働時間(主たる勤務先＋副業含む)
13. 月平均当直回数
14. 月平均オンコール回数
15. キャリア形成に障害となっているもの(複数選択可)
16. 医師のキャリアを積む上で、支援が欲しいと思ったこと(複数選択可)
17. 仕事内容に関し差別を感じたことがあるか
18. 昇進に関し差別を感じたことがあるか
19. 女性外科医が同僚として勤務する場合支障となると感じるか
20. 女性医師は、特に妊娠・出産・子育て中に、休業、仕事内容の変更または仕事時間の短縮が必要となることがありますが、それについてどう考えるか
21. 男子学生に外科を進路として勧めるか
22. 女子学生に外科を進路として勧めるか

アンケート質問項目

C. 個人生活に関する質問

23. 婚姻状況
24. 生活の中で、優先したいことを選んでください。まず、最も優先したいことは何か
25. 生活の中で、2番目に優先したいことは何か
26. 実際に最も優先していることは何か
27. 家庭生活のための時間は十分取れているか
28. 地域・社会活動に参加する時間は十分取れているか
29. 趣味・娯楽、スポーツなどのための時間は十分取れているか
30. 休養のための時間は十分取れているか
31. 日頃仕事以外の生活について満足しているか
32. 配偶者/パートナーとの間で家事や育児分担する場合、理想ではどのような割合になるか
(自分自身と配偶者/パートナーで合計が10になるとして、自分の割合の数字を選択。現状と関わり無く、また、配偶者/パートナーがいない方は、いる場合を想定して回答。)

アンケート質問項目

D. 未婚者への質問

33. 結婚したいと思うか
34. 結婚後に勤務形態が変わると思うか
35. 子供を持ちたいと思うか
36. 子供が生まれた後に勤務の形態が変わる（または変えよう）と思うか（例；常勤から非常勤への変更、配置転換など）

E. 既婚者への質問

37. 結婚したのは何歳のときか(結婚している場合)
38. 生活上のパートナーの職業
39. 主として家事にかかわる人は誰か
40. 一日当たり家事に費やす時間はどれくらいか
41. パートナーを持ってから勤務の形態は変わったか

アンケート質問項目

F. 子供に関する質問

- 42. 子供の有無
- 43. 子供の数
- 44. 子供の年齢(年齢が高いほうから記入)
- 45. 子供の出産前に休みを取ったか
- 46. 子供の出産後にお休みを取ったか
- 47. 出産後勤務形態は変わったか(例;常勤から非常勤への変更、配置転換など)
- 48. 育児の主たる担い手は誰か
- 49. 通常の勤務中に子供の世話をするのは誰または何処か
- 50. 緊急時の勤務や当直時に子供の世話をするのは誰または何処か
- 51. 子供が病気になったときに世話をするのは誰または何処か
- 52. 勤務先に育児の支援体制はあるか

アンケート質問項目

G. 介護に関する質問

- 53. 介護をしなくてはならない人はいるか
- 54. 介護の対象となっている人は誰か
- 55. 介護の主たる担い手は誰または何処か

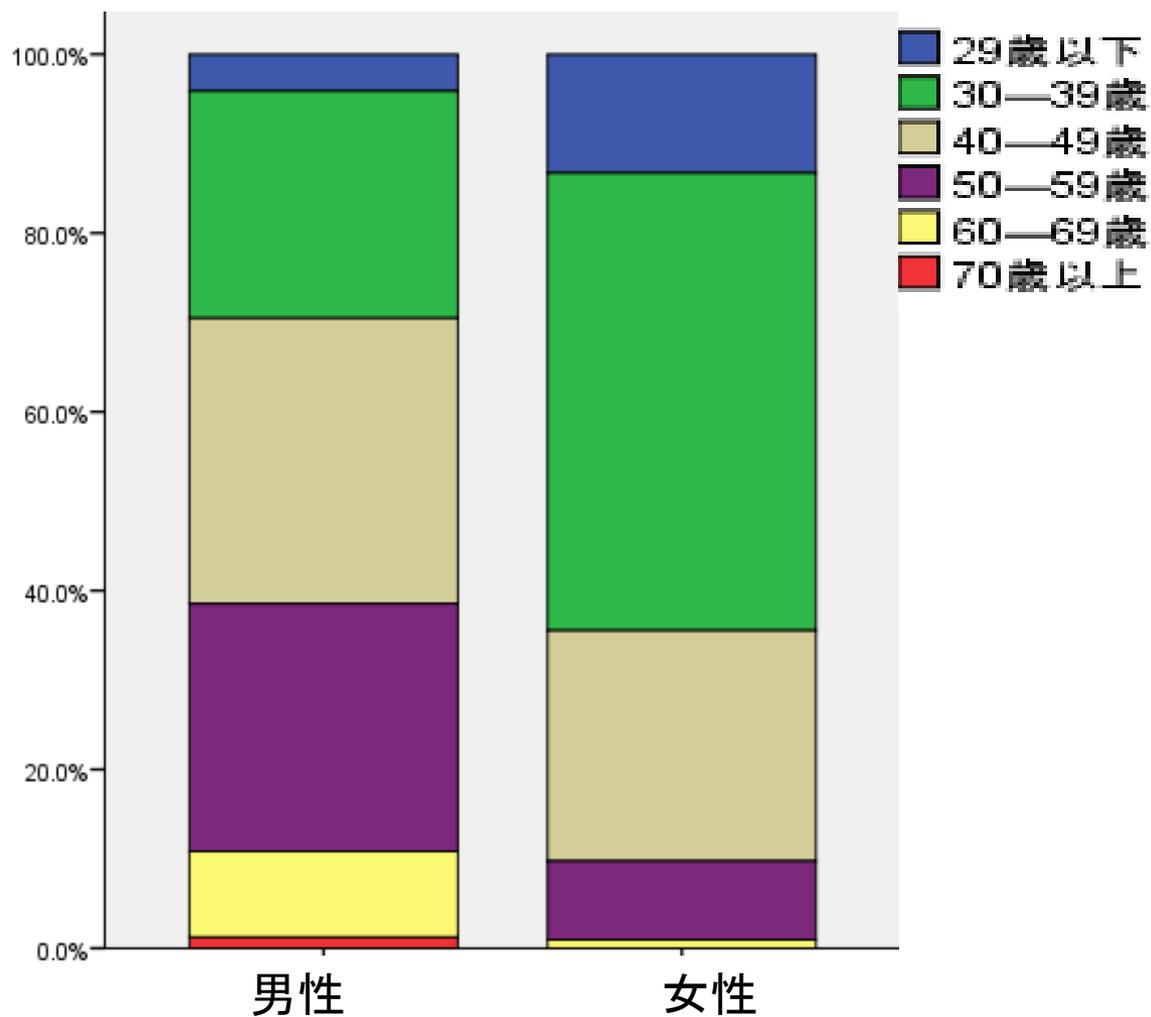
H. 自由記載

- 56. 外科医がワークライフバランスを保つ上での問題点は何か
- 57. 外科医がワークライフバランスを保ちやすくするために日本外科学会が取り組むべきことは何か
- 58. 外科医がワークライフバランスを保ちやすくするために各病院あるいは経営母体(自治体、国、民間など)が取り組むべきことは何か
- 59. 外科医師としての勤務を続ける上で育児や介護などにまつわる問題点や支援についての意見
- 60. その他、本アンケートにいての意見

回答数と回答率

- 有効回答数： 6211
 - 男性 5586
 - 女性 625
 - 回答率 20.8%

年齡分布



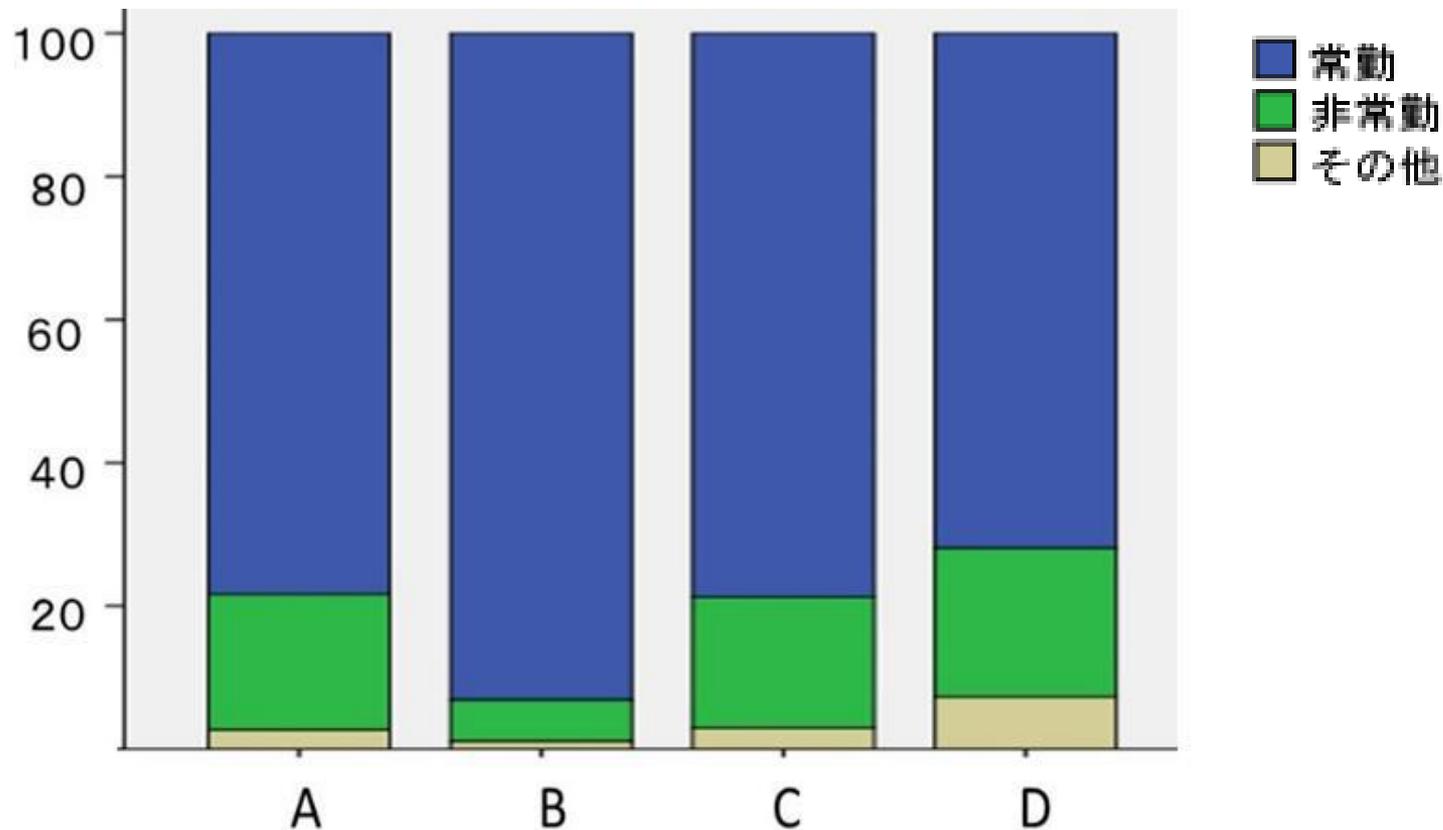
性別と子供の有無で違いがあるのか

- 各項目に関し、性別と子供の有無により、次の4つのグループに分けた。

A:	男性	子供なし	976	(16.0%)
B:	男性	子供あり	4,544	(74.3%)
C:	女性	子供なし	377	(6.2%)
D:	女性	子供あり	221	(3.6%)

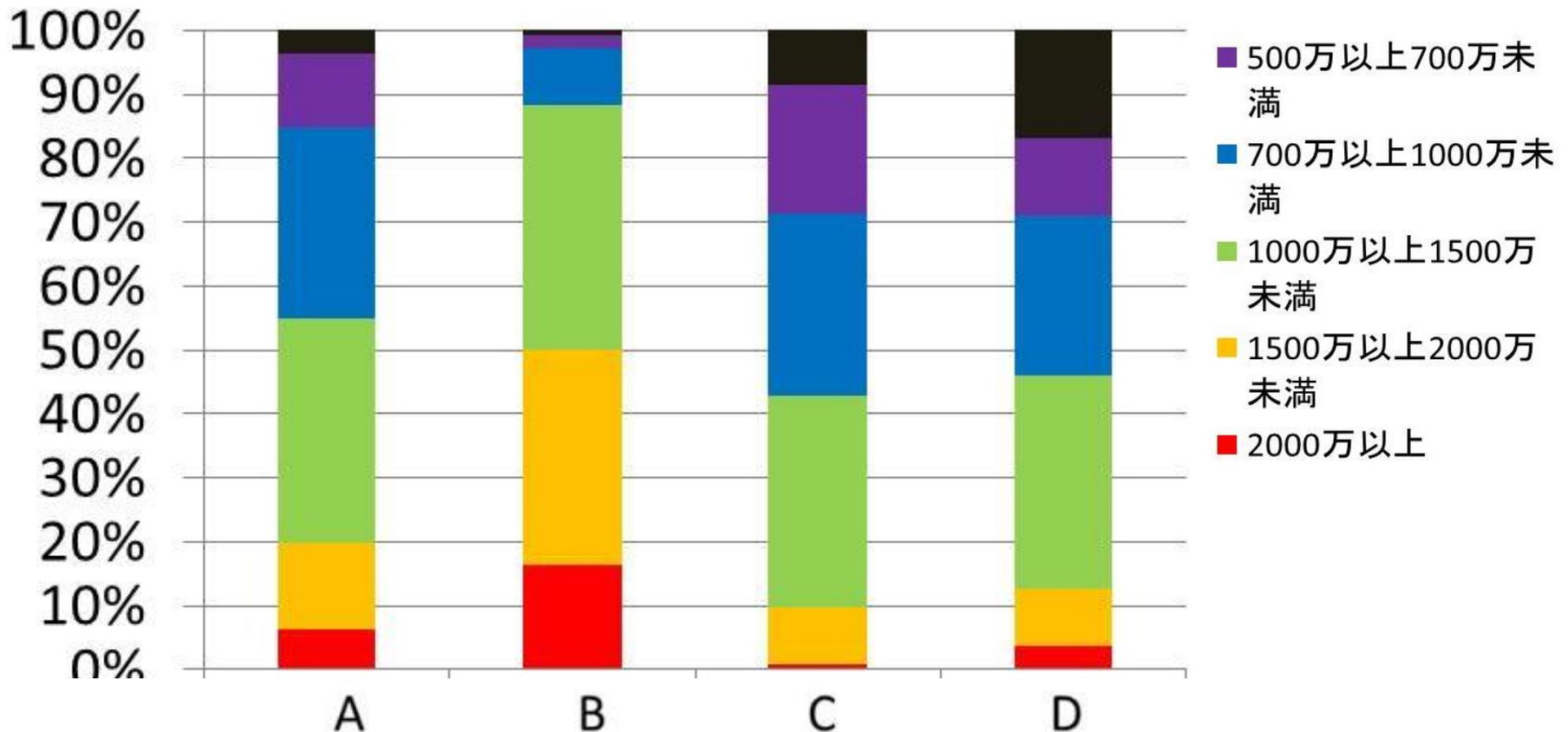
雇用形態

- 大学医局所属: 77.5% 男女差なし
- 子供を持つ男性で常勤が多い



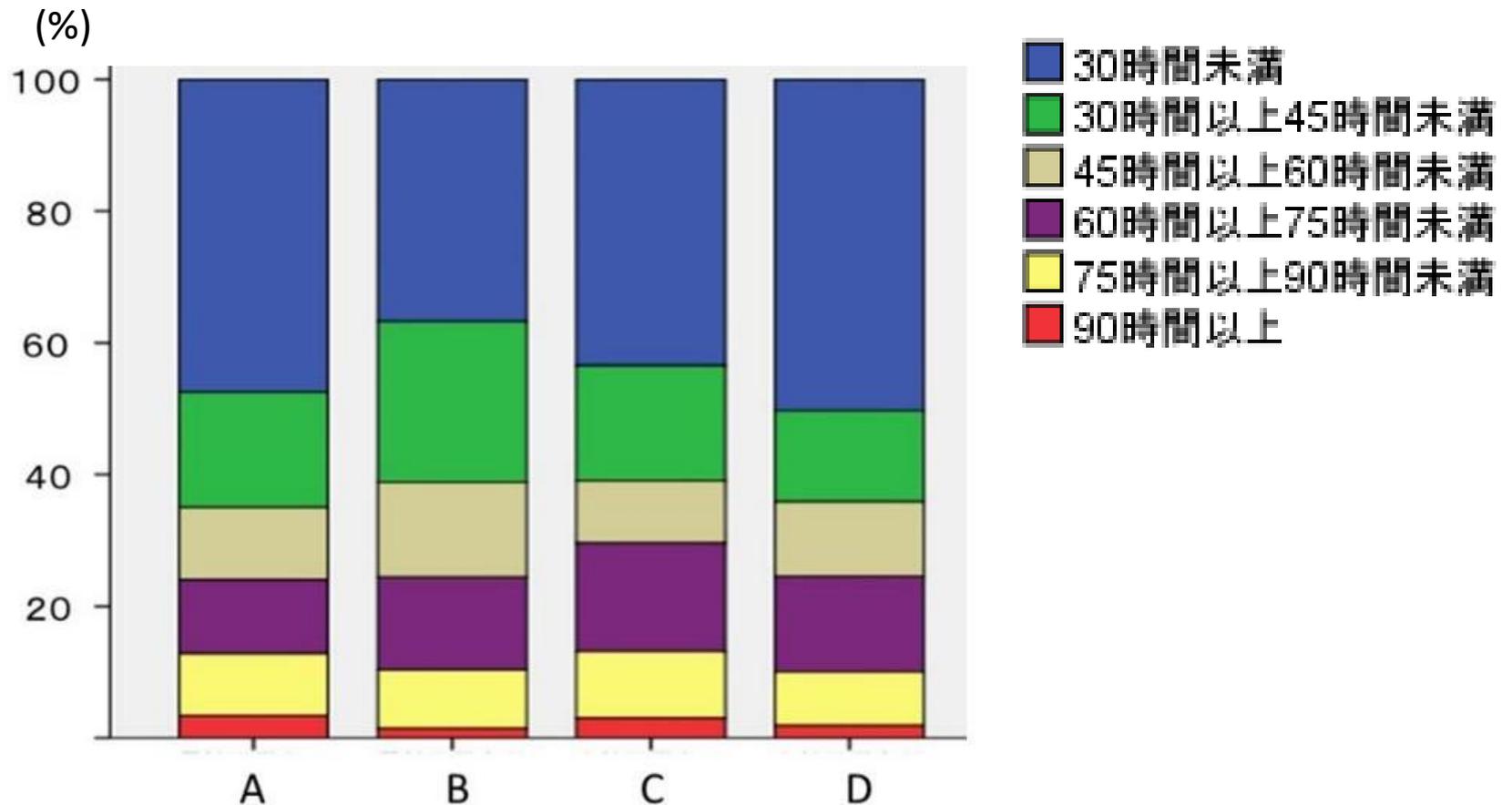
年収

- 女性の年収が有意に低く、特に子供を持つ男性と女性の年収の差が大きい
- 常勤者全体の61%が、アルバイトをしていた



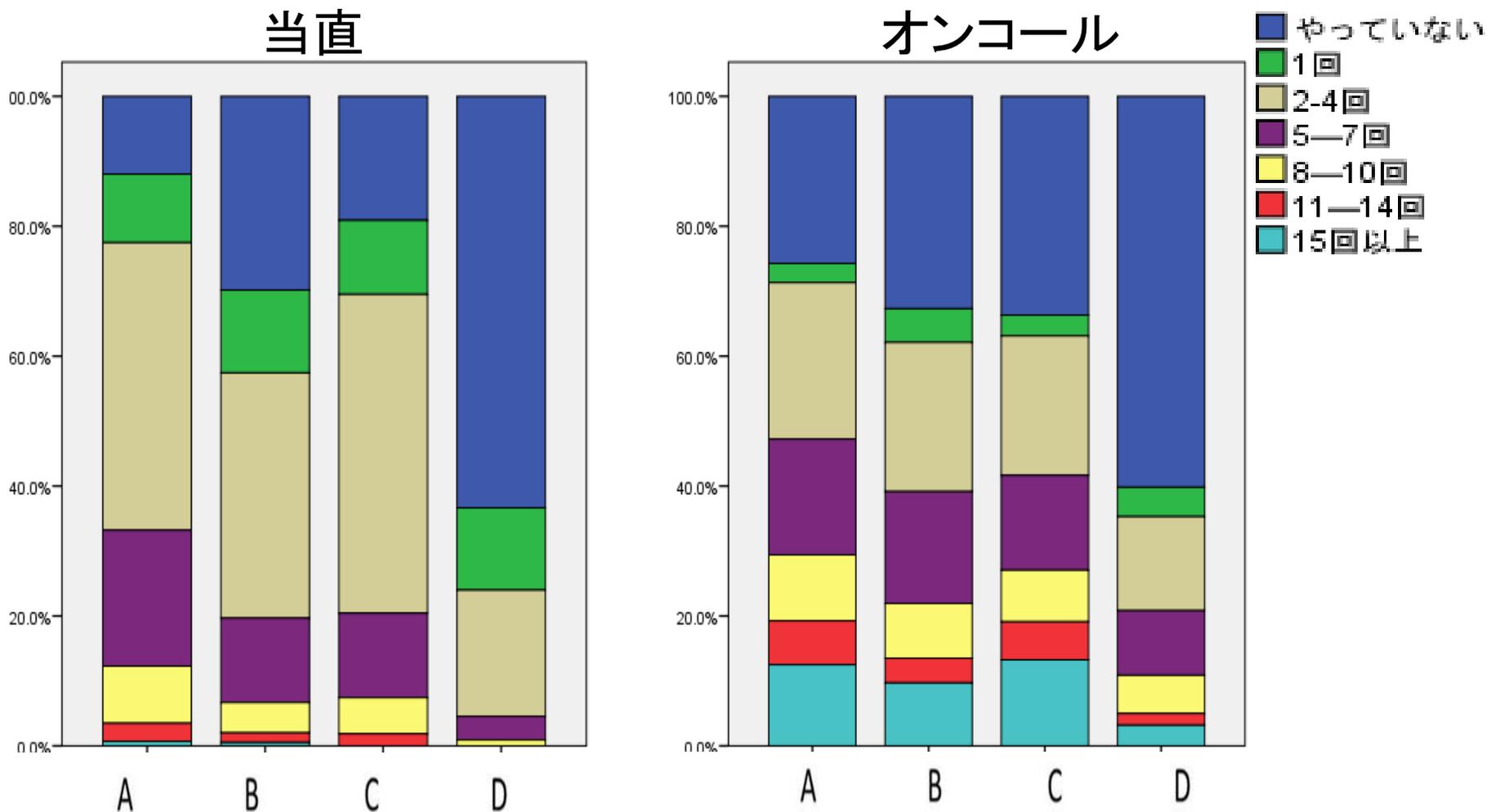
週労働時間

- 全体の61.7%が週60時間以上、90時間以上労働者も13.9%いた。

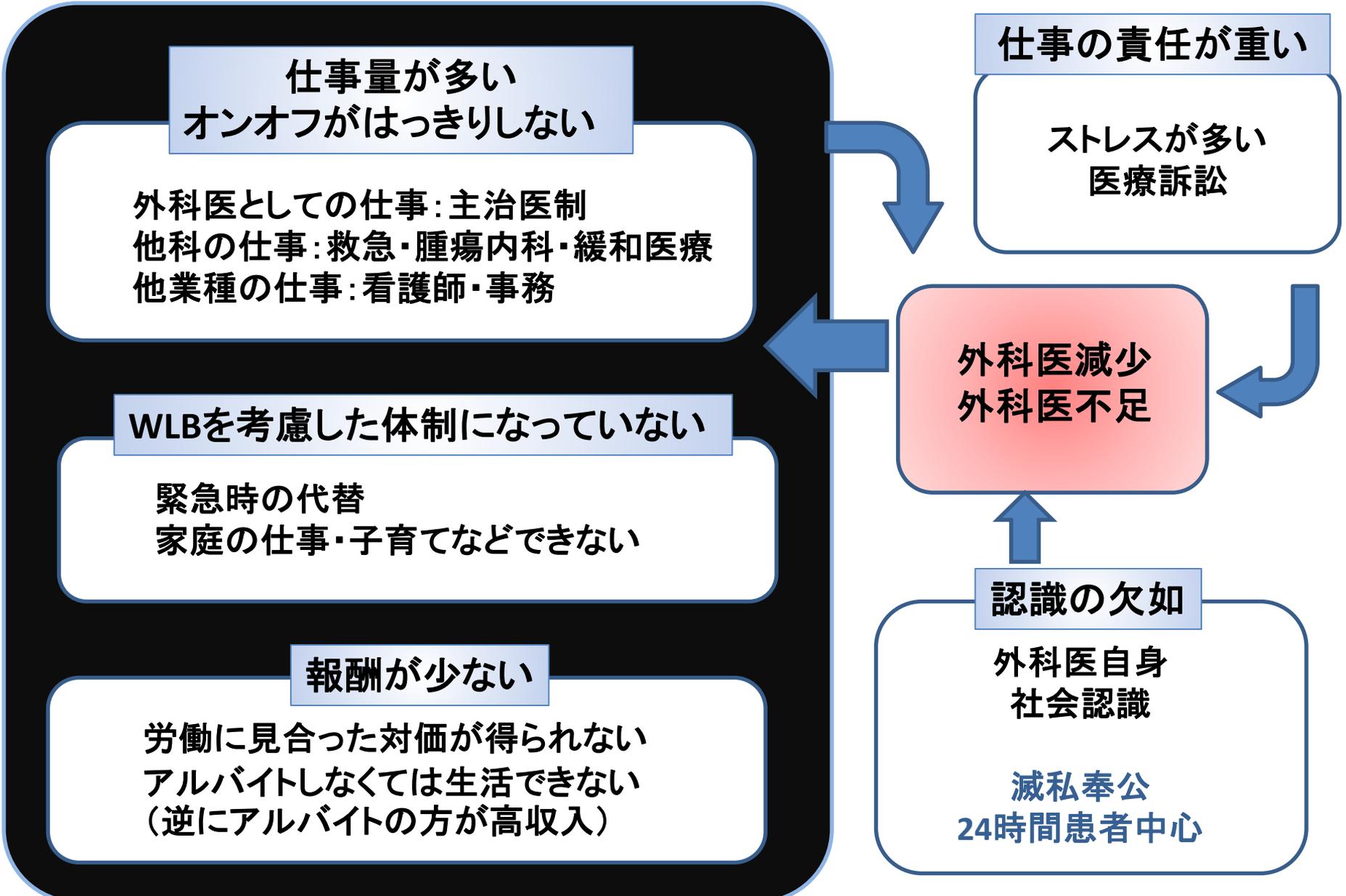


当直とオンコール回数

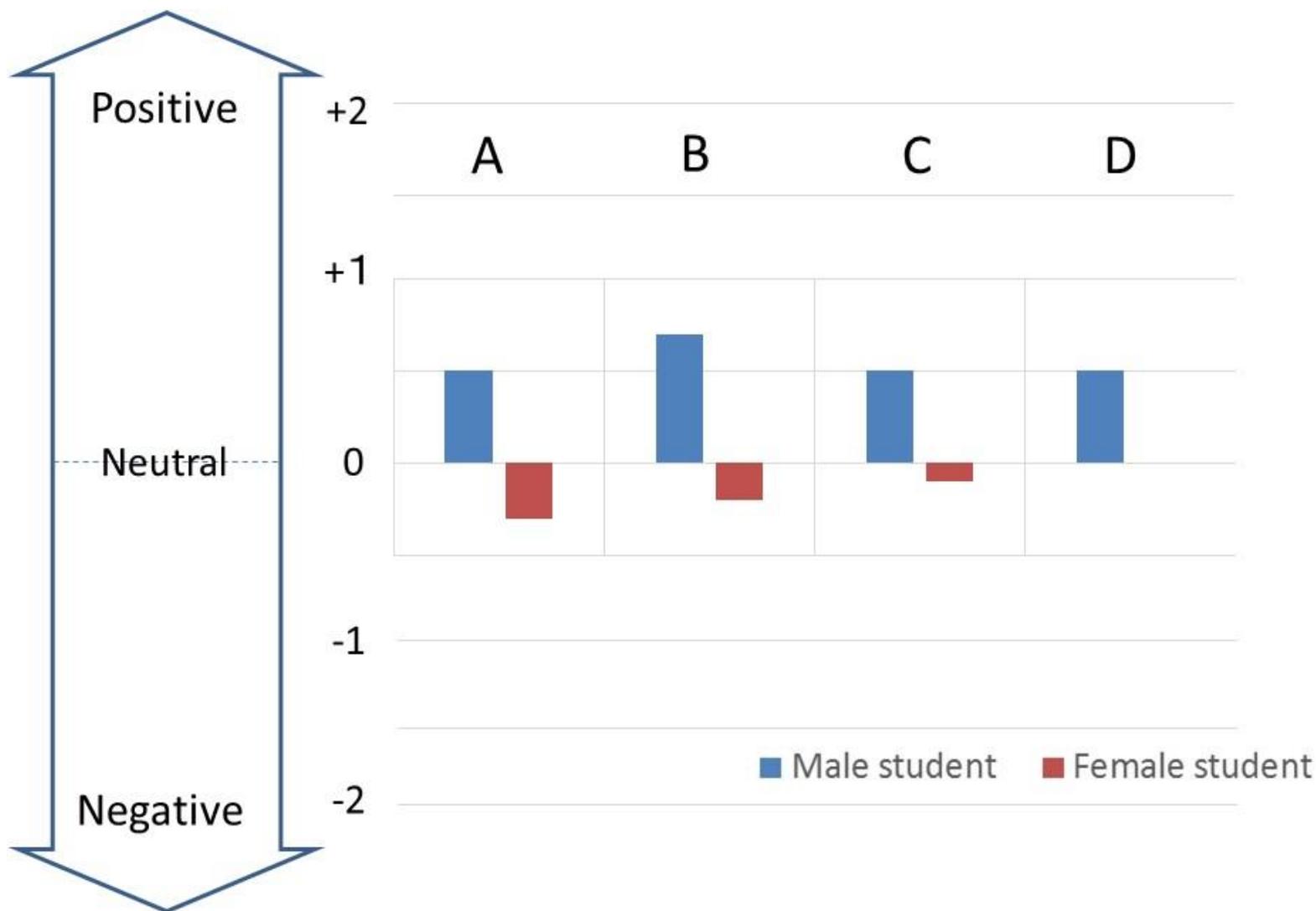
- 子供を持つ女性で有意に当直およびオンコール回数が少ない



外科医がWLBを保つ上での問題点による負のスパイラル

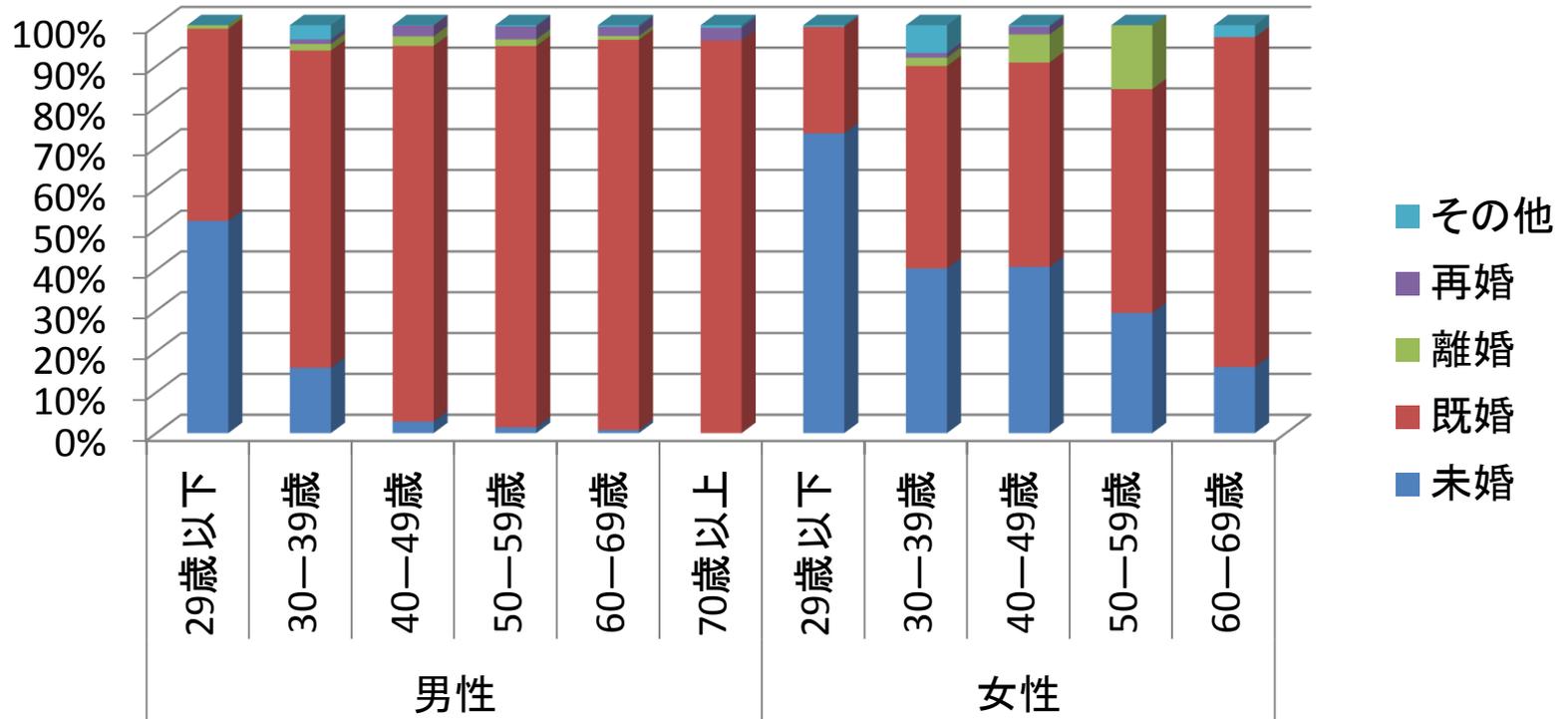


学生に外科を勧めるか



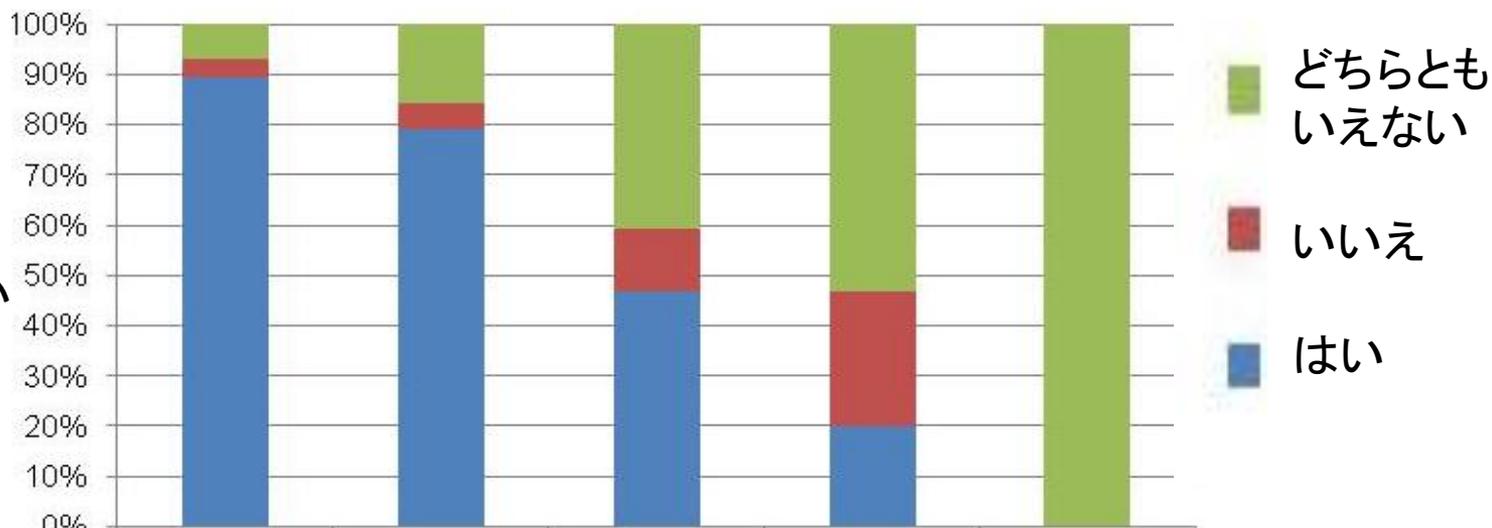
婚姻状況

- 全体の83.7%が既婚
- 有意に女性の未婚・離婚者が多い

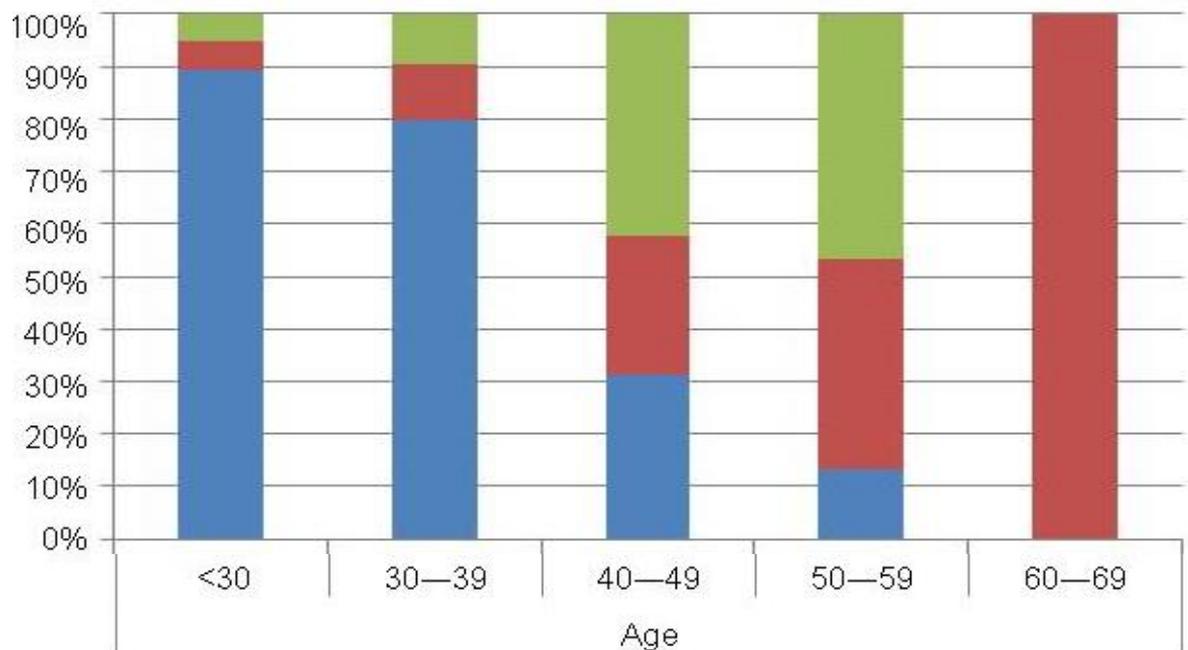


女性未婚者への質問 年齢別

• 結婚したいか

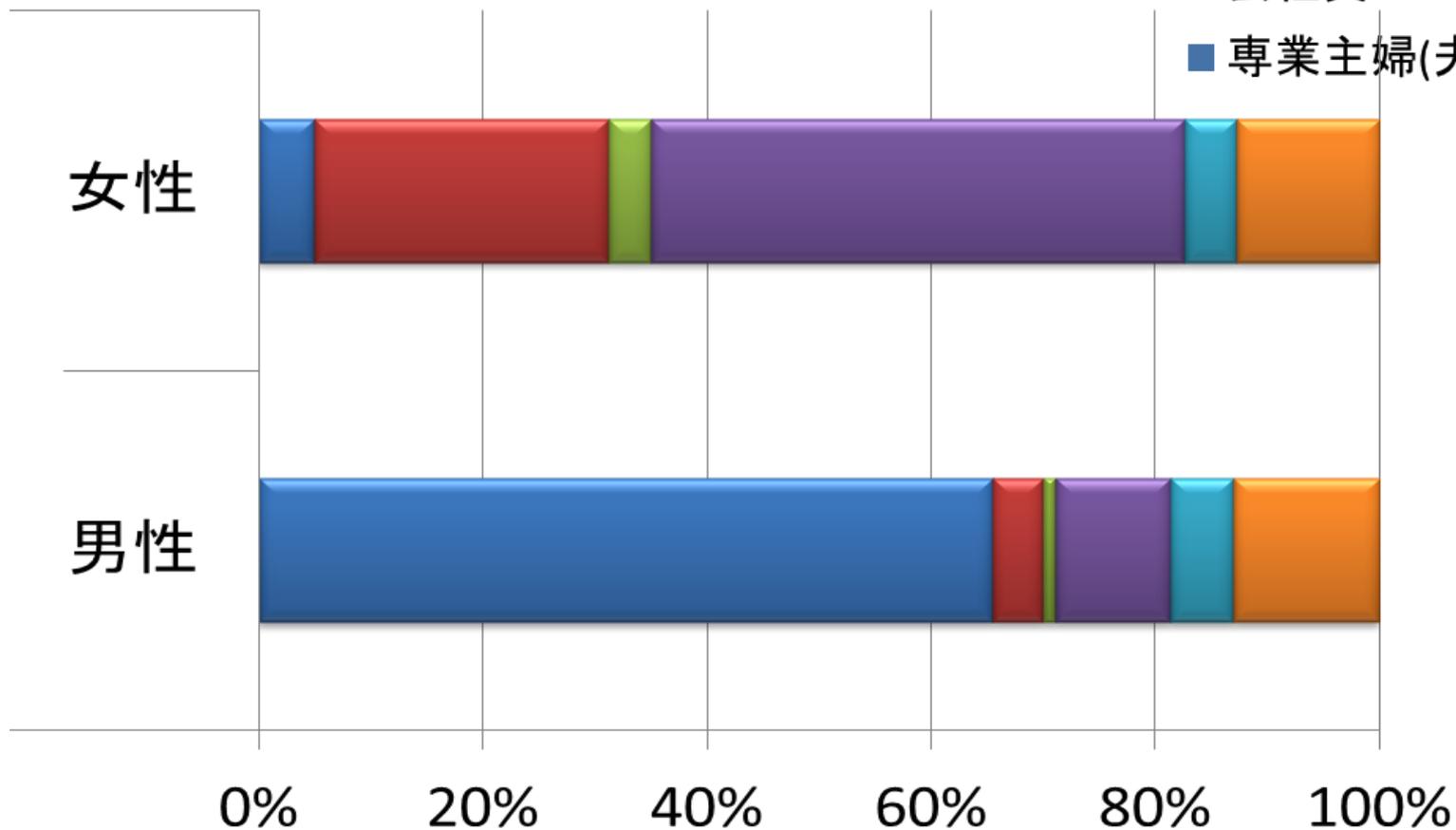


• 子供を持ちたいか



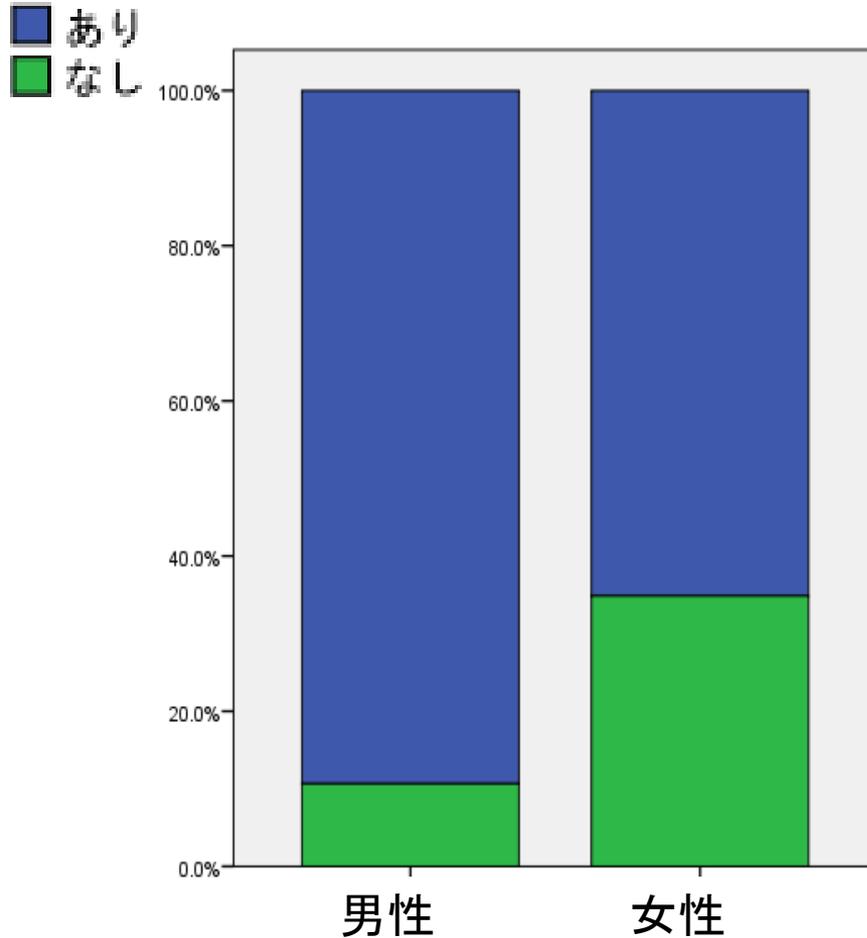
配偶者の職業

- その他
- 非常勤医師
- 常勤医師
- 自営業
- 会社員
- 専業主婦(夫)

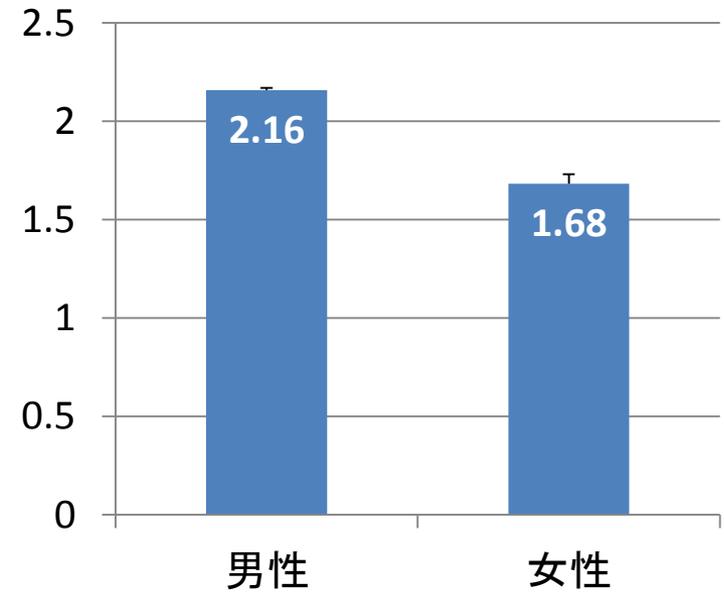


子供の有無と数

Q42子供の有無



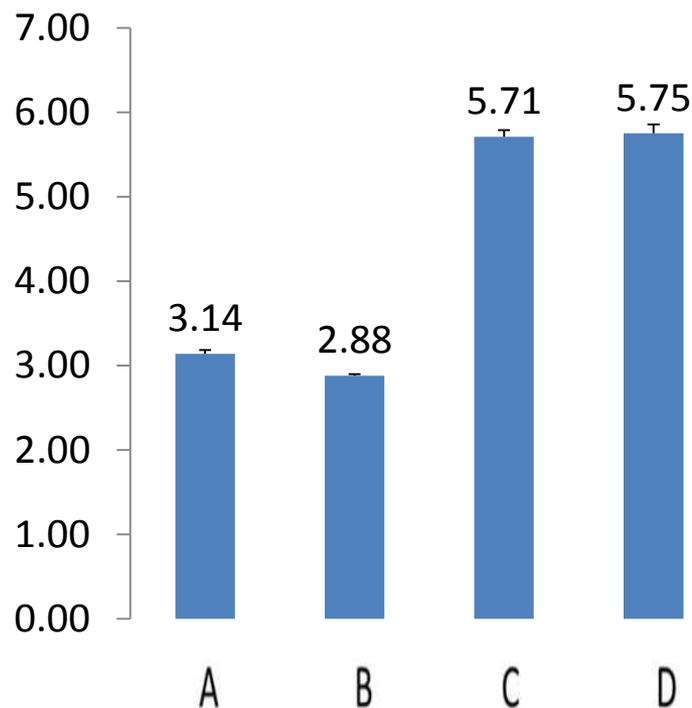
Q43 子供の数の平均



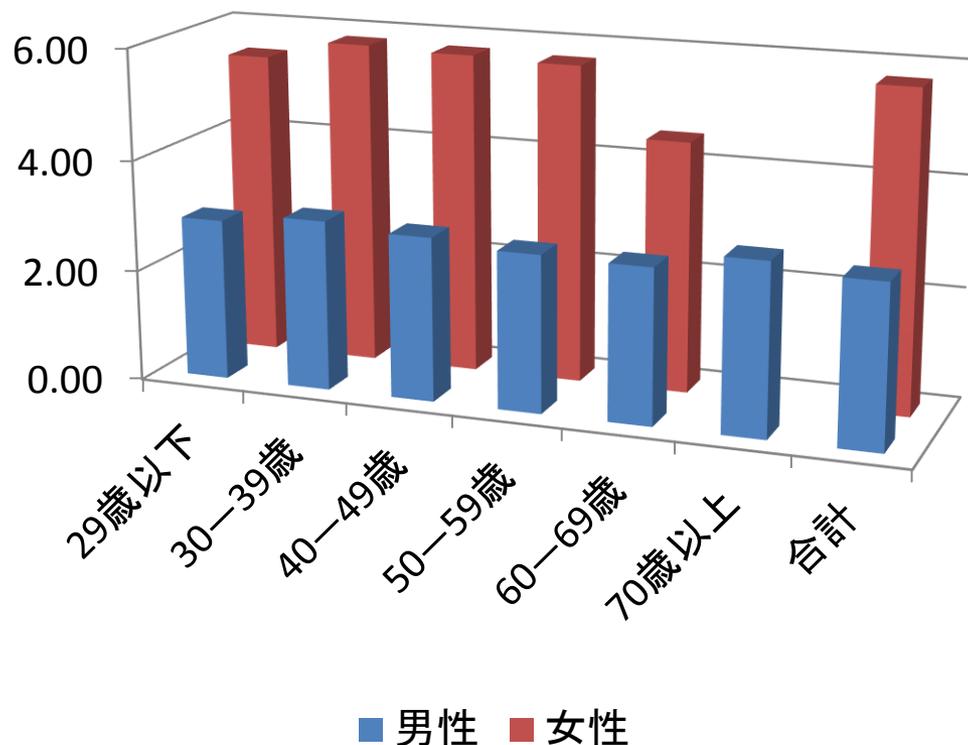
家事育児分担の理想割合

- 男女ともに、男性は女性に家庭を任せるのが当然と思っており、年代が変わってもこの考えは変わらない。

Q32 家事育児分担の理想割合

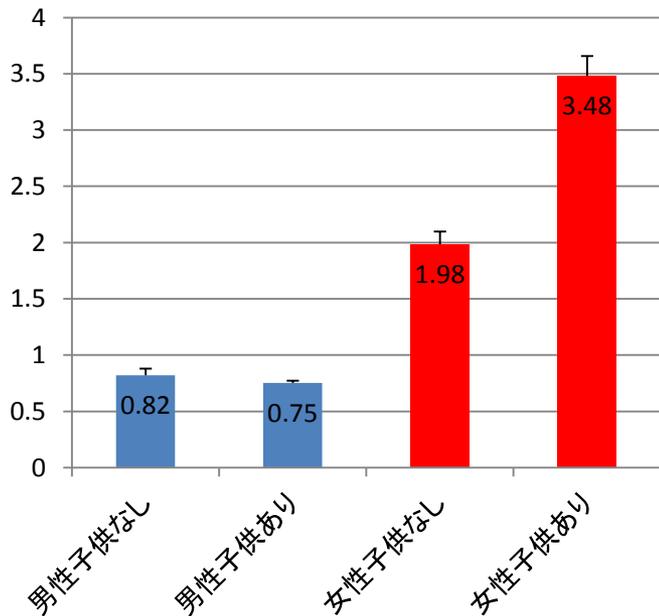
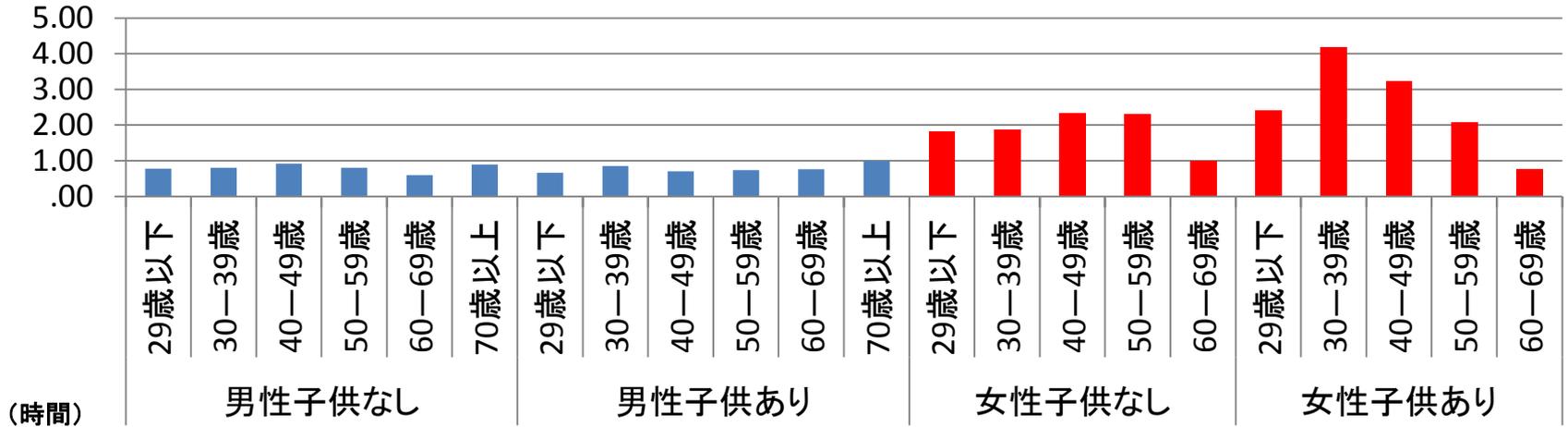


性別年齢別の家事育児分担理想割合



1日当たり平均家事・育児時間

性別年齢別1日当たり平均家事/育児時間



外科女性医師の問題点

- 子育ては母親が行うものとの観念を男性女性ともに持ち続けられれば、男性と同様にキャリアを積むことは不可能
手術経験を積めない＝外科医が続けられない
- 男性も家庭の仕事をするのが当然との考えが浸透すれば、女性外科医自身も当直やオンコールなど通常業務ができるようになり、外科医としての経験も積むことができる。
- 男性もワークライフバランスを保ちつつ外科医を続けられる体制にする必要あり
- このためには職場環境の改善や子育てに必要な体制を整えるだけでなく、男性女性ともに意識も変えていかなくてはならない。



多様性と特殊性

- 多様性を尊重することは、すべてのメンバーが活躍することによってよりよい成果をもたらすために必要である。
- 庇護するということは、今まで差別されてきた特別な集団に対して通常の社会についていけるようにする事である

偏見

- 明らかな偏見
 - 女なんてすぐ結婚して辞めるだけ
 - 女性は従うのは得意だが、リーダーには向かない
- 潜在的な偏見
 - 頭では理解して偏見など持っていないと思っても、気付かない思い込み

行動様式における性別固定観念

- 男ならこうあるべきだ
 - 女々しい
 - 軟弱
- 女ならこうあるべきだ
 - 男勝り

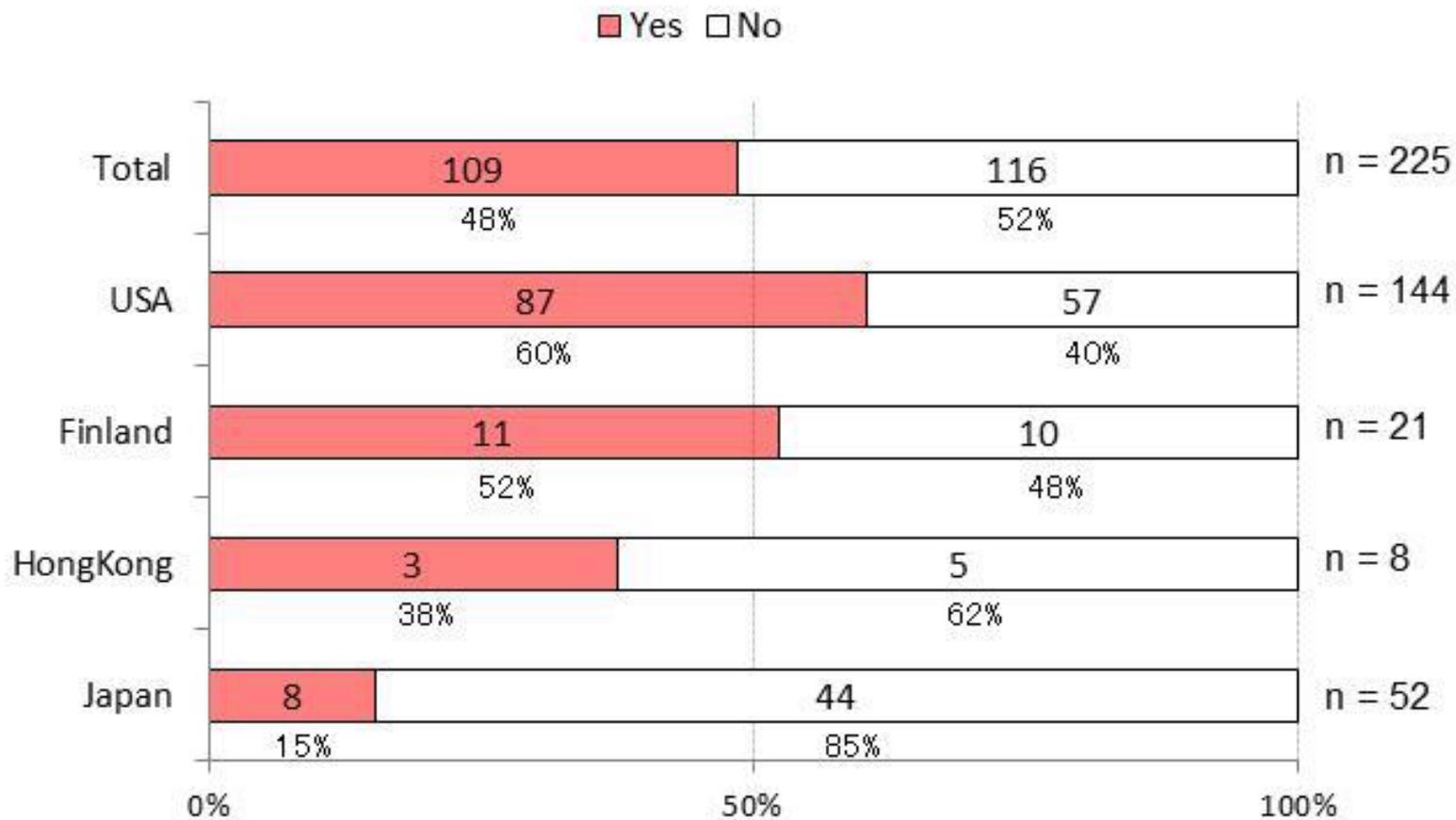
リーダー的立場における 固定観念

- 男性
 - 男らしくすると
 - 自信を持って行動している
 - 威厳がある
 - 情熱あふれる
- 女性
 - 女らしくすると
 - 自信がない
 - 指導力がない
 - 男らしくすると…

女性の男らしい態度の危険性

- 支配的
- 威張り散らす
- 傲慢
- 自己顕示欲が強い
- うぬぼれ屋

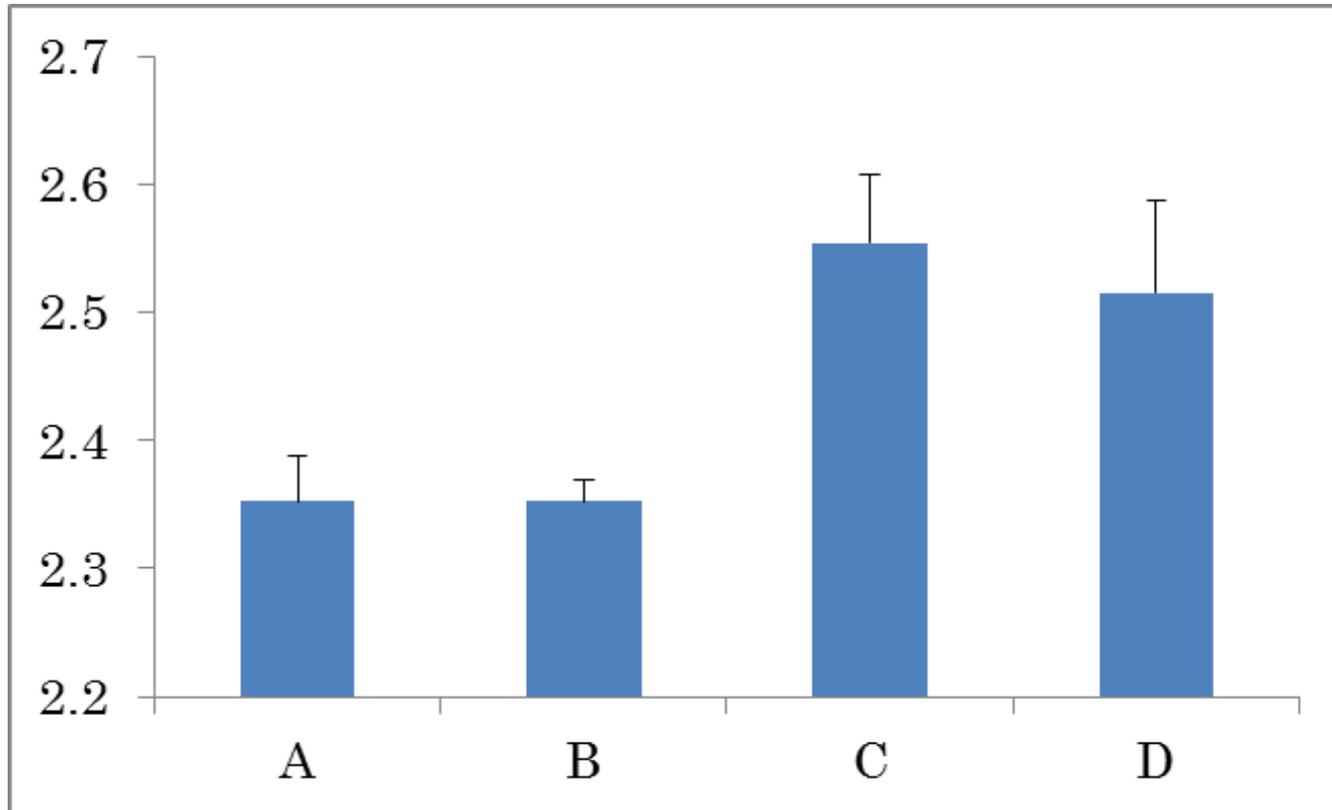
現在主要学会の委員会や研究班のメンバーである



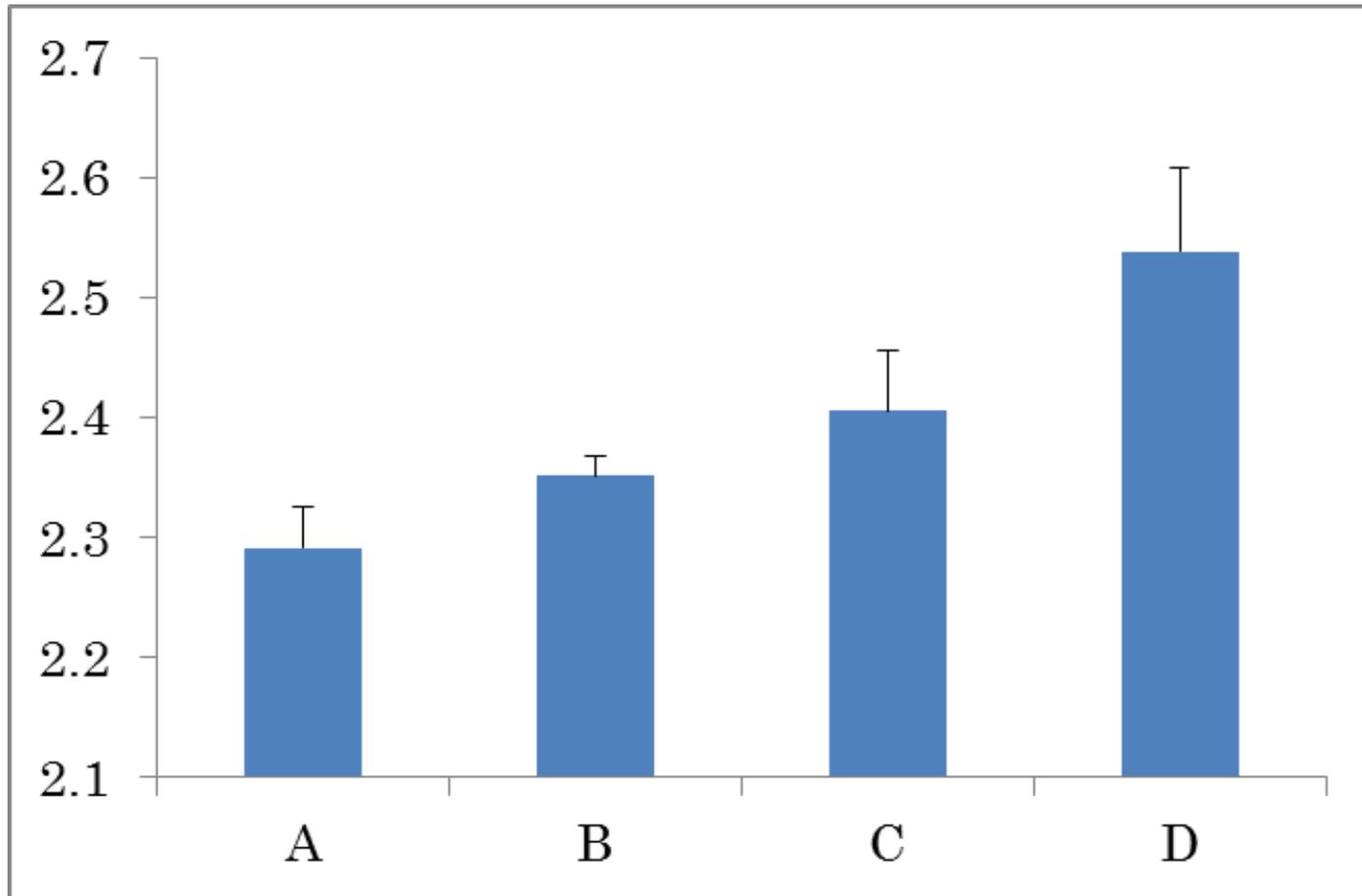
Japan vs. The other countries : $p < 0.0001$ (Pearson's chi-square test)

仕事上の差別感

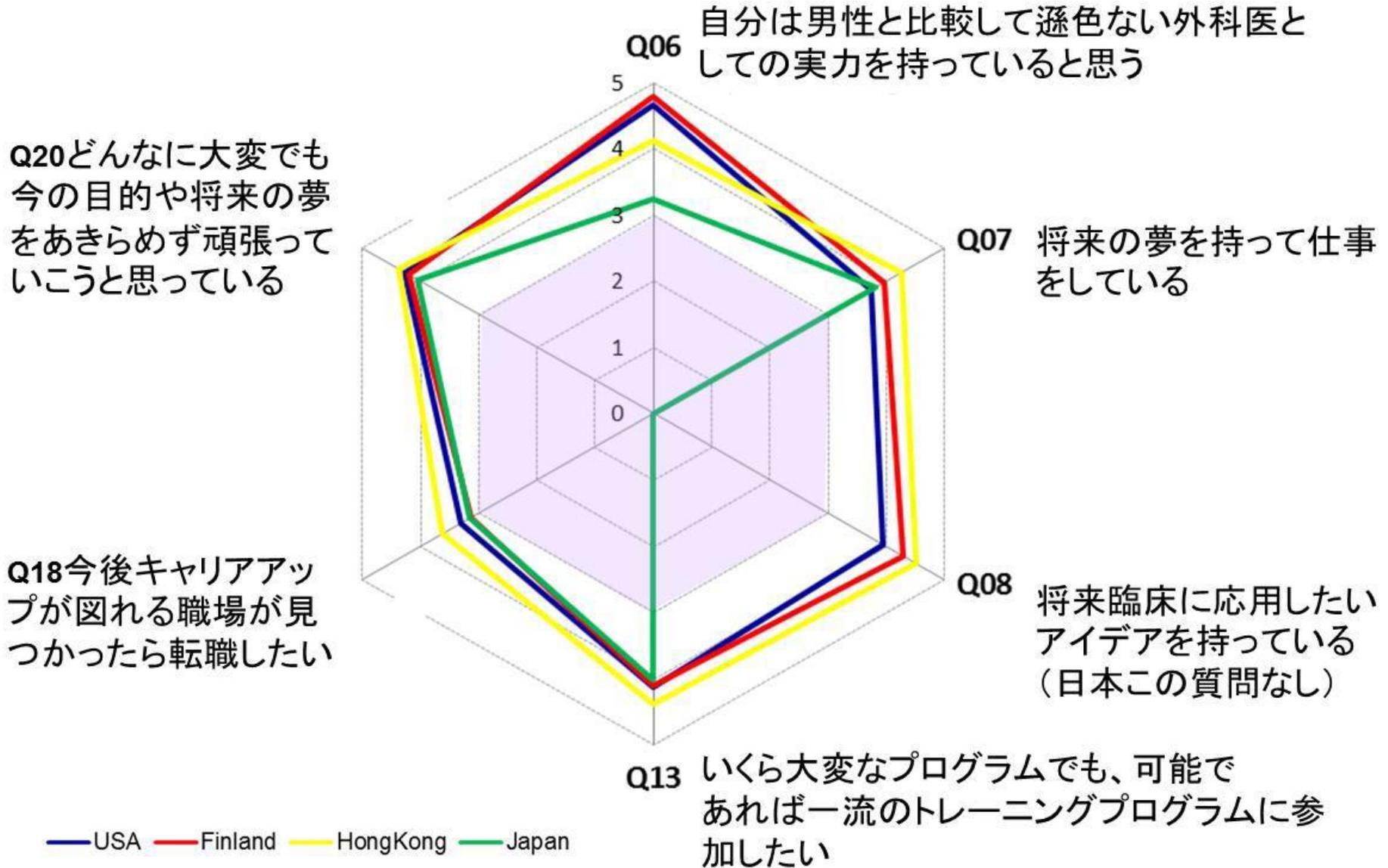
5-point Likert scale (1: 全く感じない、2: 感じないことが多い、3: どちらともいえない、4: 感じるが多い、5: 非常に強く感じる)を用いてスコアの比較を行った



昇進の差別感



Purposefulness



Q06 自分は男性と比較して遜色ない外科医としての実力を持っていると思う

Q20 どんなに大変でも今の目的や将来の夢をあきらめず頑張っていこうと思っている

Q07 将来の夢を持って仕事をしている

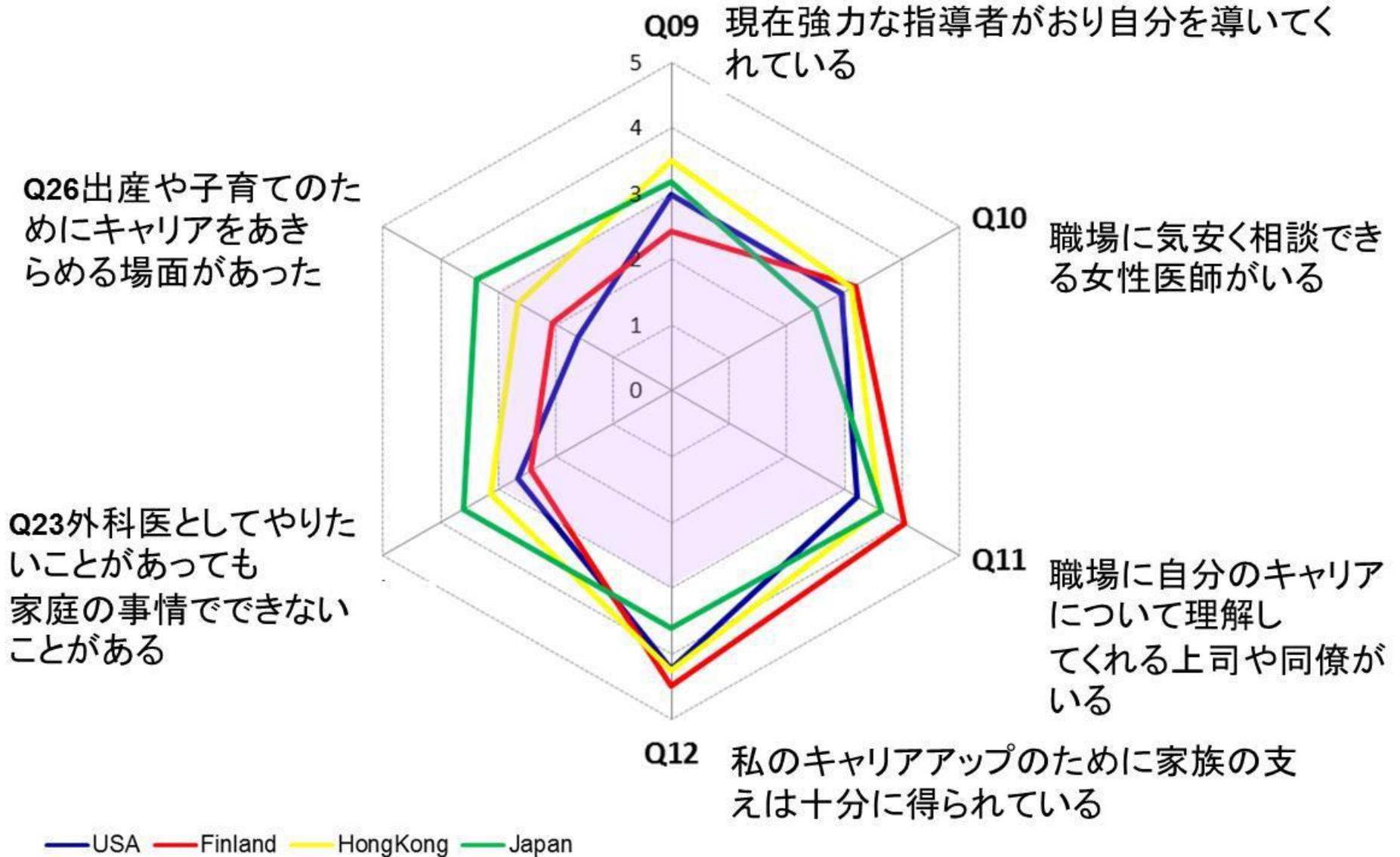
Q18 今後キャリアアップが図れる職場が見つかったら転職したい

Q08 将来臨床に応用したいアイデアを持っている (日本この質問なし)

Q13 いくら大変なプログラムでも、可能であれば一流のトレーニングプログラムに参加したい

— USA — Finland — HongKong — Japan

Support



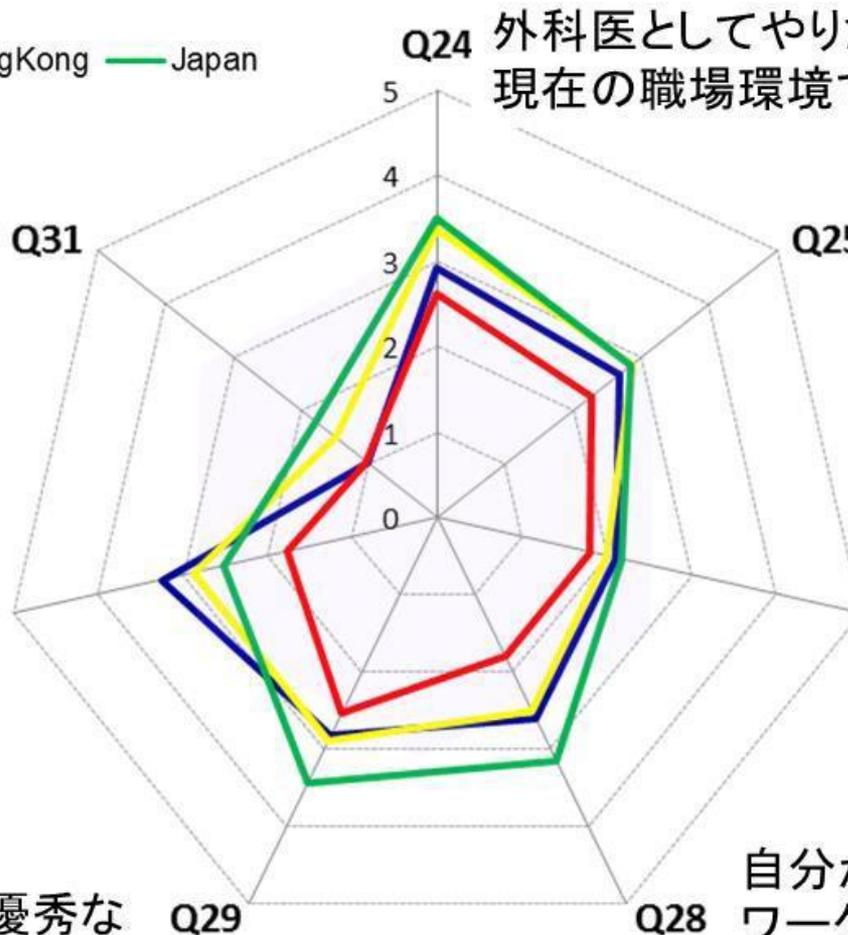
Obstacles

— USA — Finland — HongKong — Japan

女性は体力的に劣るのでリーダーには向かない

Q30 女性医師が上司だと男性医師が部下として集まらないと思う

今の男性社会では優秀な女性でもキャリアを十分に伸ばしていけないと思う



Q24 外科医としてやりたいことがあっても現在の職場環境ではできないことがある

Q25 現在の私は自分の実力を発揮する機会を与えられていないと思う

Q27 キャリアのために結婚や出産をあきらめる場合があった

Q28 自分が現在リーダーとなったらワークライフバランスを維持できないと思う

Q29

日本女性外科医会

<http://jaws.umin.jp/>

- 様々な女性外科医が活躍している
 - ロールモデルを見つける
 - モチベーションの維持
 - ネットワークを広げる
- 朝食会(年2回)、勉強会を開催
 - 日本外科学会
 - 日本臨床外科学会



まとめ

女性医師は能力も、やる気も持っている

- 大切なのは、女性医師自身がやる気を持ち続けること

考えていかななくてはいけないのは、

- それをどう生かせるか
- それをどのように伸ばしていける環境を与えるか

学会が率先して、各施設の指導者層が思い込みを排除し、一人一人が能力を十分に発揮できる体制を作っていく必要がある。

